



第3回

北海道高等学校選抜登山大会

2024年8月24日(土)・25日(日)

美瑛岳 (2,052m)



美瑛富士分岐上主稜線から見た美瑛岳

主 催 北海道山岳・スポーツクライミング連盟
共 催 北海道高等学校体育連盟登山専門部
事務局校 北海道旭川工業高等学校

開閉会式次第

開会式

開式の言葉

大会委員長挨拶・諸注意

各隊長紹介

各学校自己紹介

大会役員紹介

閉式の言葉

閉会式

開式の言葉

大会委員長挨拶・講評

各隊長講評

閉式の言葉

<大会役員>

大会長 北海道山岳・スポーツクライミング連盟会長 石井 昭彦

副大会長 北海道高体連登山専門部長・北海道旭川工業高等学校長 中島 泰彰

大会委員長 北海道高体連登山専門部専門委員長(旭川工業高等学校) 小池 圭太

A 隊隊長 市立函館高等学校 塩谷 和樹

B 隊隊長 北海道室蘭栄高等学校 日向 真樹

審査員及びサポート

内海 健一(旭川工業)	丹野 裕之(旭川西)	三戸 渉(室蘭栄)
玉森 一(釧路湖陵)	水野 秀人(帯広大谷)	高橋美香子(北広島)
岡崎 知之(旭川北)	藤本 和夫(岩見沢東)	城座 研一(富良野緑峰)
梅川 悟史(岩見沢東)	中新井 尊(北見北斗)	木谷 弥彦(小樽潮陵)
柴田 一(室蘭栄)	宮澤 宜法(小樽潮陵)	藤原 幸二(有朋苫小牧)
木村 宣幸(北広島)	上内 智英(釧路湖陵)	日野 秀一(旭川工業)
白戸 愁真(旭川工業)	飯田 一三(旭川東)	増田 光博(旭川東)
畑野 和宏(遠軽)	細野 護(旭川工業)	及川 香織(旭川北)

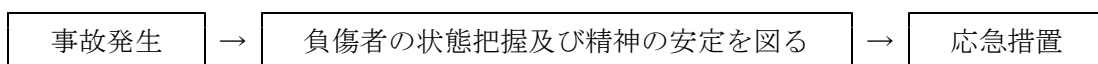
大会本部 小池 圭太(旭川工業) 三戸 渉(室蘭栄)

事務局校 北海道旭川工業高等学校

<事故対策委員会>

副大会長	中 島 泰 彰
大会委員長	小 池 圭 太
A隊隊長(男子)	塩 谷 和 樹
B隊隊長(女子)	日 向 真 樹
事務局校	小 池 圭 太
サポート	大会参加校山岳部顧問

<事故発生時の手順>



◎負傷発生に関する方向は正確かつ詳細に行う。

◎負傷者を父母に引き渡すまでは付き添い看護に当たる。

事故対策委員会	
1	110番通報、あるいは救急車の出動要請。または最寄りの病院への搬入。
2	保護者への連絡(日本学校健康会の手続き)
3	関係機関への報告(書類作成)

<関係機関連絡先>

北海道警察旭川方面本部地域課	078-8511	旭川市1条通25丁目487-6	0166-35-0110
旭川東警察署美瑛交番	071-0207	美瑛町中町4	0166-92-2036
美瑛消防署	071-0208	美瑛町本町4丁目5番20号	0166-92-2029

令和6年度 第3回北海道高等学校選抜登山大会 開催要項

- 1 主催 北海道山岳・スポーツクライミング連盟
- 2 共催 北海道高等学校体育連盟登山専門部
- 3 期日 令和6年8月24日（土）から25日（日）まで
- 4 会場 美瑛岳（2,052m） 望岳台往復コース
- 5 テーマ 「十勝岳連峰について」
- 6 集結地 国立大雪青少年交流の家 〒071-0235 北海道上川郡美瑛町白金 TEL 0166-94-3121
※交流の家敷地内の野営場にて幕営
- 7 日程
 - 1日目 24日（土）
 - 13:00 国立大雪青少年交流の家 受付
 - 13:30 開会式（交流の家野営場）
 - 13:45 顧問打ち合わせ（選手確認、審査について）
 - 14:00 テント設営審査
 - 14:30 ペーパーテスト ※下敷き持参
 - 15:30 炊事開始 審査
 - 16:00 天気図審査 ※ラジオ、下敷き持参
 - 17:00 顧問会議、安全対策会議
 - 21:00 就寝
 - 2日目 25日（日） 男女ともサブザック行動
 - 4:00 起床
 - 4:30 朝食、テント撤収 移動（監督の車など）
 - 5:30 望岳台 登山開始
 - 9:30 美瑛岳
 - 13:00 望岳台
 - 13:30 閉会式 解散
 - ※荒天対策 十勝岳避難小屋往復登山
- 8 参加人数 選手：80名（男48、女32） 役員：27名（男26、女1） 計107名
- 9 参加資格
 - （1）北海道高体連に加盟している高等学校の生徒。
 - （2）高体連主催大会参加者災害補償制度に加入した者、または加入の意志がある者。
 - （3）年齢は4月2日起算とし18歳未満であること。
 - （4）参加生徒は、健康診断を受け在学する校長が支障ないと判断した者とする。
 - （5）その他は、北海道高等学校体育連盟の大会開催基準による。
- 10 パーティ編成
 - （1）1パーティー選手4名、高校の教員である監督1名。
 - （2）男子パーティーをA隊、女子パーティーをB隊とする。
- 11 表彰 大会終了後 登山専門部webページ等で結果を公表する。
- 12 携行品
 - （1）幕営に必要な野営用具・食料・非常食・その他一般用具
「全国大会に準ずる」（ピッケル・アイゼンは不要、ストックの使用は好ましくない。）
 - （2）地図は国土地理院25000分の1地形図「白金温泉」を用意すること。原本以外はコピーでも可。
 - （3）時計の高度計機能やGPS機能は使用しないこと。ウェアラブル端末・スマートフォン等の電子機器は大会中使用しないこと。カメラ機能は隊長の指示に従うこと。
 - （4）天気図用紙は「気象協会1号様式」を用意すること。

13 記名様式

- (1) メインザック・サブザック・ザックカバーの外側中央に、学校名と選手の番号を記入した布 A (縦10cm、横14cm程度) をつける。布は参加校で用意する。
 - (2) 行動中に着用する帽子の前面に、登山専門部より配付されたゼッケンを縫い付けること。安全ピンの使用は不可。
 - (3) テントの張り綱には学校名を記入した布 C (縦30cm、横40cm程度) をつける。布は参加校で用意する。
- * (1) と (3) は識別しやすく直接記入しても良い。

14 事故対策

- (1) 安全対策委員会を置き、安全登山に万全を期す。
- (2) 緊急を要する場合は、安全対策委員会要領により対策を講ずる。

15 その他

- (1) 出場前に選手に事故が生じた場合のみ、監督会議にて変更し補欠の出場を認める。ただし、参加申込書に記載された2名以外は認めない。
- (2) 本大会の計画書を作成し、受付の際に2部提出すること。
- (3) 健康保険証または健康保険証のコピーを持参すること。
- (4) 各パーティの食事については、すべて各パーティで用意すること。また、感染症対策を踏まえ食事の準備をすること(a米、レトルトのみでも可)。
- (5) 1パーティにつき、テントを1張り用意すること。
- (6) 監督(顧問)の食事についても、すべて各自で用意すること。また、監督(顧問)はテント泊または車中泊とする。

16 付記

- (1) マスクは必要に応じて着用すること。その他、感染予防のガイドラインに従い行動すること。

17 参加経費

選手一人あたり600円、監督(顧問)2500円
※大会当日受付にて現金でお支払いください。

★申込方法

道高体連登山専門部webページ <http://www.tozan-koutairen.hokkaido-c.ed.jp/> より参加申込書をダウンロードして必要事項を入力後下記アドレスに送信してください。
原本は開会式当日持参してください。

★申込〆切 令和6年7月17日(水)まで

★申込先

kei-koike@hokkaido-c.ed.jp
北海道高等学校体育連盟登山専門部 専門委員長 小池圭太
〒078-8804 旭川市緑が丘東4条1丁目1-1 北海道旭川工業高等学校内
TEL 0166-65-4115 Fax 0166-51-2818

<確認事項>

- 1 参加人数については、各学校男女各1パーティのみとします。
(学校の都合で、パーティの人数が3名や5名などとはご相談ください。審議します。)
- 2 全道大会の審査基準に基づいて審査を行います。
- 3 参加されるすべての顧問の先生に大会運営のお手伝いをお願いします。審査等もご協力をお願いします。

美瑛岳コース概況

美瑛岳へのアプローチはいくつかあるが、今回は道道 966 号十勝岳温泉美瑛線（十勝岳スカイライン）の美瑛町にある標高 930m の望岳台からスタートする。現在も活発に火山活動する十勝岳は、噴火警戒レベル1である。

望岳台には、2016 年に十勝岳望岳台防災シェルターが設置された。突発的な噴火による噴石から身を守るための緊急避難施設（避難シェルター）で、非常品や食料などを備蓄しているほか、非常用発電機も設置されており、即時救出が困難な場合には、一時滞在施設としての機能を備えている。トイレ、避難スペースは 24 時間開放しており、大型モニターによる火山の監視映像や火山活動・気象情報等の表示による情報発信も行われているが、冬期間は道道 966 号も併せて閉鎖されている。

望岳台からは、十勝岳連峰を見渡すことができる。南から富良野岳、三峰山、上富良野岳、上ホロカメットク山、十勝岳、美瑛岳、美瑛富士、石垣山、ベベツ岳、オプタテシケ山とつづく山容は壮観である。

登山道は、火山灰と火山れきの緩やかで平坦な斜面が続くが、死者・行方不明者 144 名を出した 1926 年 5 月 24 日の噴火時の大規模な泥流のあとでもある。植生は少しずつ回復しており、ハイマツ・ミヤマハンノキ、6 月から 8 月にかけては、イソツツジ、マルバシモツケ、ウラジロタデ、シラタマノキ、イワブクロなどの高山植物もところどころに見られる。

十勝岳避難小屋の直下の 1258m にある分岐を東に進み小さな硫黄沢を渡り尾根を少し登ると、雲ノ平のトラバースとなる。植生は豊かで、前出のものはもちろん、メアカンキンバイ、ミヤマキンバイ、ミネヤナギ、クロウズゴ、コケモモ、エゾノツガザクラ、アオノツガザクラ、ミネズオウ、イワウメなど時期によって多くの高山植物が見られる。また、ナキウサギ、キタキツネ、ギンザンマシコなども見ることができるとは、ヒグマにも注意を払おう。

雲ノ平は十勝岳の摺鉢火口、昭和火口などの中腹の斜面で、斜面のトラバースは 1500m の高度を保ちながら十勝岳を回り込む。斜面の奥からは爆裂火口をもつ美瑛岳が姿を現す。爆裂火口から続くポンピ沢にある勝瑛ノ滝は落差が 20m ありアバレ川へ下る。トラバースの終わりには、その支流である函状の沢がある。この沢は深くえぐれており、沢底まで鉄製のハシゴが設置されているが慎重に通過してほしい。沢を登りきり右手にエゾコザクラなどのお花畑を見ながら少し下ると、よい水場でもあるポンピ沢となる。ここで一息入れ、沢を渡ると崖混じりの急登が待っている。ミヤマハンノキやウコンウツギ、ウラジロナナカマド、タカネナナカマドなどのかん木の斜面である。登り切ると平坦となりしばらく進むと視界が広がり、美瑛富士との分岐に出る。この沢地形には遅くまで雪渓が残りアバレ川に下る。

分岐を右に折れ、美瑛岳の主稜線に取り付く。ここからは一気に高山帯となり、雪渓が溶けたあとから次々と高山植物が咲くお花畑が頂上まで続く。前出以外では、コメバツガザクラ、ジムカデ、イワヒゲ、イワブクロ、キバナシャクナゲ、コガネギク、初秋にはエゾオヤマノリンドウなどが咲き誇る。登山道は爆裂火口沿いを登るので、右手に雲ノ平から続くトラバース道と函状の沢、火口越しに十勝岳の豪壮な姿が眺望できる。美瑛岳山頂は爆裂火口の一角にある。火口は赤茶けた火山れきの深くえぐられた斜面でかなりの高度感がある。この先は十勝岳への縦走路となり、途中左に下ると美瑛富士とのコルへと続き、美瑛富士避難小屋からオプタテシケ山への縦走路となる。

美瑛岳は十勝岳連峰のほぼ中央に位置することもあるが、展望は素晴らしい。南西方向は、爆裂火口越しに木々も全くない活火山である荒々しい十勝岳、その右奥には富良野岳、さらに奥には芦別岳のタ張山地がある。十勝岳の左には独立峰のような下ホロカメットク山、さらにそのはるか向こうには、今年新たに国立公園に指定された日高山脈がある。北東方向には、アイヌ語で「槍がそこにそり立っている山」という意味をもつオプタテシケ山、右奥には百名山のトムラウシ山、左奥には大雪山系主峰旭岳をはじめとする山々を望むことができる。北にはコルを挟んですぐ近くに、平坦で意外に広い山頂をもつ美瑛富士が望まれる。

下りは来た道をもどるが、ポンピ沢への下りは、岩と急斜面に注意することと、函状の沢の通過も慎重にお願いしたい。

令和6年度 第3回北海道高等学校選抜登山大会 参加高等学校・参加人数一覧

○男子

	ゼッケン	学 校 名	選手	顧問
1	6	北海道北広島高等学校	3	2
2	19	北海道旭川北高等学校	4	2
3	23	北海道遠軽高等学校	4	1
4	28	北海道釧路湖陵高等学校	6	2
5	21	北海道富良野緑峰高等学校	3	1
6	22	北海道北見北斗高等学校	4	1
7	18	北海道旭川西高等学校	3	2
8	14	北海道小樽潮陵高等学校	3	2
9	9	北海道市立函館高等学校	2	1
10	16	北海道岩見沢東高等学校	4	2
11	17	北海道旭川東高等学校	4	2
12	20	北海道旭川工業高等学校	4	5
13	12	北海道室蘭栄高等学校	4	3
合計			48	26

○女子

	ゼッケン	学 校 名	選手
1	6	北海道北広島高等学校	5
2	28	北海道釧路湖陵高等学校	4
3	21	北海道富良野緑峰高等学校	2
4	22	北海道北見北斗高等学校	4
5	18	北海道旭川西高等学校	3
6	14	北海道小樽潮陵高等学校	3
7	16	北海道岩見沢東高等学校	3
8	17	北海道旭川東高等学校	4
9	12	北海道室蘭栄高等学校	4
			32

選手合計 80名、顧問合計26名、役員2名 合計108名